

これから調査を行う蕪木遺跡について、今月から月 1 回「発掘調査だより」に調査の様子を紹介していきます。写真や図などを使い、「わかりやすさ」をモットーにします。よろしくお願いします。

なお、この「発掘調査だより」は市のホームページ

(<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>) でも公開しています。あわせてご覧ください。

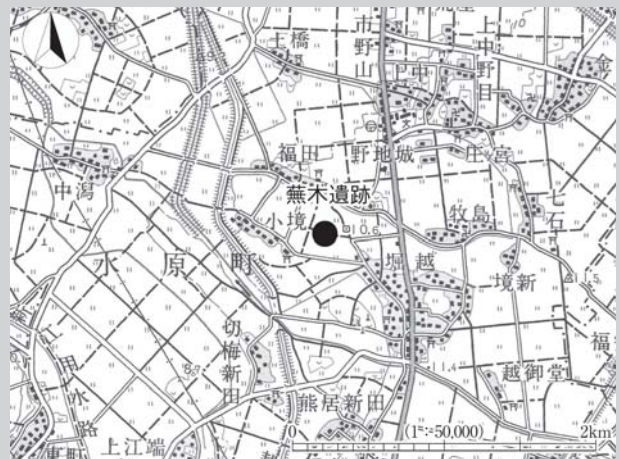
1. 調査の概要

市道牧島小境線道路は、阿賀野バイパスへのアクセス道路として計画されました。この道路工事に先立ち、市教育委員会が道路建設予定地内の試掘調査を行ったところ、蕪木遺跡が発見されました。そのため、今年、10 月までの予定で発掘調査を実施します。調査面積は約 1,700 m²で、幅 19m × 長さ 90m の東西に長い調査区になります (第 1 図)。

蕪木遺跡は旧阿賀野川右岸に広がる平野の少し小高い場所に立地しており、標高は 9.3 ~ 9.6m です。現在、周辺には水田が広がっており、小境集落や福田集落、堀越集落にはさまれたところです (第 2 図)。



第 1 図 調査区の周辺 東から撮影



第 2 図 蕪木遺跡の位置

2. 調査速報

7 月初めから「表土掘削：ひょうどくっさく」を始めます。表土掘削では、重機を用いて地表から遺構(いこう：建物の柱や井戸などの痕跡)が確認できる深さまで掘り下げます (第 3 図)。遺構を壊すことがないように、少しずつ慎重に掘り進めていながら地面の様子を見きわめなければなりません。蕪木遺跡の場合は、地表から約 20 ~ 30cm の深さに遺構があります。

この後の作業は、いよいよ発掘調査になります。次号でお伝えします。楽しみにお待ちください。



第 3 図 表土掘削の様子

3. (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査の成果

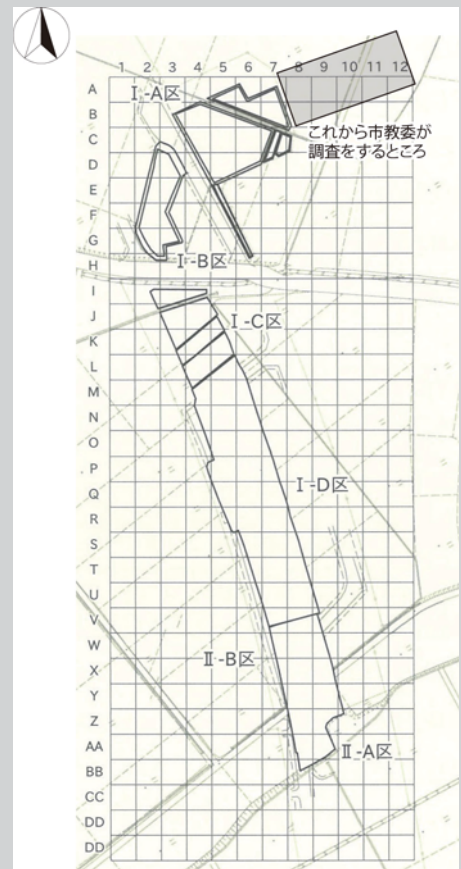
蕪木遺跡では阿賀野バイパスの工事に伴って、(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団)が平成26～27年度の2か年にわたって発掘調査を実施しました。調査面積は約7,000㎡です(第4図)。これから発掘調査を行う範囲は、事業団が調査したI-A区の東側になります。

事業団の発掘調査によって、蕪木遺跡は平安時代(約1100年前)、鎌倉・室町時代(約800～600年前)の遺跡であることがわかりました。遺跡からは多くの遺構が見つかっており、当時の人びとが生活していた様子の一端がうかがえます。

平安時代では、長さ19.5m・幅9.5m、面積140㎡の大きな建物が見つかりました(第5図)。平安時代の建物として、阿賀野市内では最も大きなものになります。出土遺物(いぶつ:土器などの道具)では、土師器(はじき:素焼きの土器)や須恵器(すえき:灰色の硬質な土器)のほかに、一般の集落では珍しい耳皿(みみざら:耳状の小型土器)、灰釉陶器(かいゆうとうき:釉薬のかかった土器)などが出土しています(第6図)。このことから、蕪木遺跡が当時の役所、有力者の家である可能性が指摘されています。

このほかにも、天然アスファルトの大きな塊も出土しており、当時の人びとがどのように使っていたのか、考える必要があります。

鎌倉・室町時代では、焼けた人骨が含まれた穴が見つかりました。火葬土坑(かそうどころ)と呼ばれるこの穴は、遺体をお墓に納める前に火葬して骨化する施設になります。近くの砂田遺跡(堀越)でも、最近の調査で4～5基見つかっていて、関連性がうかがえます。



第4図 事業団の調査範囲
(鈴木・石橋2018より転載、一部加筆)



第5図 大型の建物(鈴木・石橋2018より転載)



第6図 古代の出土遺物(鈴木・石橋2018より転載)

参考文献

鈴木俊成・石橋夏樹2018『新潟県埋蔵文化財報告書 第277集 蕪木遺跡』新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団